

# 高校家庭科の高齢者介護問題に関する ロールプレイの授業実践

山本 圭郎\*・山野 京子\*\*・入江 和夫

Teaching about Problems in Nursing Care for Elderly People through  
Role Playing in Senior High School Home Economics

YAMAMOTO Yoshiro\*, YAMANO Kyoko\*\*, IRIE Kazuo

(Received January 15, 2008)

キーワード：ロールプレイング、授業実践、高齢者介護、ゆとりある介護

## はじめに

前報<sup>1)</sup>で述べたように著者らは生徒の授業への集中力・注目度・学習意欲を喚起させる工夫をし、「高齢者介護の問題点に気づき、より良い介護の方法について理解する」を主眼とした指導案を作成した。一次の第1, 2時で実際に起きた事件のビデオや具体的な高齢者介護に関わる問題を理解するためのワークシートによる学習、高齢者介護問題の体験的理解のためのモデル家族をアレンジしたロールプレイング・シナリオを作成させた。二次の第1, 2時で高齢者介護が生じた場面を想定しロールプレイングの実演及び生徒相互の評価を通して、高齢者介護の問題点に気づかせ、より良い介護としてゆとりある介護を理解させることにした。授業の方法として旅田ら<sup>2)</sup>、桑原ら<sup>3)</sup>、草野ら<sup>4)</sup>は、授業の様子を教師と生徒の回答形式で教師と生徒とのやり取りが具体的に報告していることから、これを活用することにした。

ここでは、具体的な授業の流れを教師 (T) の発問、生徒 (S) の回答形式によって示すことで生徒の反応を明らかにした。またシナリオとは生徒が学習した内容の中で最も大切だと感じ、表現したものである。シナリオを評価する観点として、高齢者介護と家庭科をリンクする要素「ゆとりある介護」、「家族での協力」、「衣食住の家事技能」の3つの大切さを設定し、鑑賞する生徒の視点から指導案・教材の有用性を評価させ、また教師による評価も加えた。これらの結果について述べていく。

---

\* 山口大学大学院教育学研究科院生 \*\* 山口県立青嶺・美祢工業高等学校教諭

## 1. 方法

- 1 対象生徒 美祢市立青嶺・美祢工業高校 1 年生 (43 人)
- 2 授業実践日 2007 年 10 月 4 日 (一次第 1・2 時 : 2 時間)  
18 日 (二次第 1・2 時 : 2 時間)

## 2. 結果及び考察

### 2-1 学習の様子

#### 【1】 一次の第 1 時

##### 【1】—1 授業概要

一次の第 1 時は、高齢者介護問題の知識を補充するための内容である。授業の流れとして、生徒の興味・関心、意欲を喚起させるために①導入で「NHK のビデオ」を視聴させた。内容は、実際起こった介護疲れによる殺人と介護サービスを断り続けたことから手に障害を負ってしまった老老介護をしている男性の内容である。次に②展開として、「高齢者介護の問題点の把握とその解決策の理解」によって、導入で用いた「NHK のビデオ」の復習とともにどうすれば介護殺人などを防げるのかを考えさせることにした。次に③「介護サービスの理解」によって、ゆとりある介護のために必要な介護サービスについて理解させることにした。介護サービスには、在宅サービス・施設サービスがあり、それぞれの働きと費用の違い、山口市を例にそれらの利用状況を学習させることにした。

##### 【1】—2 授業実践

#### ①ビデオ

導入として、NHK クローズアップ現代「防げなかった悲劇～相次ぐ介護心中・殺人事件」のビデオを視聴させた。内容は、大きく二つに分かれている。はじめに京都の伏見で起こった高齢者介護疲れによる殺人事件であり、片桐被告 (一人息子) が母親の介護のために仕事を失い、生活苦から母親を手にかけてしまった内容である。次の岩本丑太郎さんは、5 年間妻の介護を一人で続けることによって腱鞘炎を患ってしまったという内容である。

T「このビデオを見た感想は?」、S「悲しかった。」「誰も頼る人がいなくてかわいそうだった。」、T「そうだね。悲しい内容だったよね。じゃあ、なぜこんな事件になってしまったのか考えていこう。このビデオでは、2 つの内容だったんだけど、性別は、いずれも男性でした。じゃあワークシートの右側の片桐被告の場合という矢印の方に注目してください。』

#### ②高齢者介護問題の把握

T「Q2 で片桐被告は、介護サービスを受けることが?」、S「できなかった。」、T「そうだね。ケアマネージャーや市の福祉事務所に相談に行ったけど、介護サービスを受けることはできませんでした。その結果、母親を手にかけてしまうという事件を起こしてしまいました。なぜ、このようなことになってしまったんだろう。」、T「高齢者介護には、3 つの負担があるんだ。片桐被告のようにお金がなくてサービスを受けられないなどの金銭的な負担。トイレに連れて行く、お風呂に入れるなどの肉体的な負担。この片桐被告の場合は、相談する人もいなくて、一人で介護していたよね。介護のために仕事を辞めて、収入もな

くなった。また、母親の状態がひどくなって昼夜問わずの介護が必要だったとも言っていたよね。このような精神的な負担の大きく3つの負担があるんだ。」、T「これら負担が限界を超えてしまうと正常な判断ができなくなるんだよ。正常な判断ってわかる？ここでは、母親を手にかけるということ。みんなもそうだけど、人を手にかけてはいけないって知っているよね。片桐被告も知っていたと思う。でもさっきの3つの負担が限界を超えてしまったためにわからなくなったんだよ。」

### ③解決策

T「Q3で、どうすれば、この事件を起こさずにすんだらろう？」、S「お金があり、介護サービスを利用する」、T「そうだね。母親の介護のために仕事をやめたことによって、収入がなくなってしまったよね。もし、介護サービスを受けられるお金があれば、仕事の間、母親の介護をしてもらうことができているとすれば、仕事をやめる必要もなく、収入がなくなってしまうこともなかったから金銭的な負担もなかった。一人で一日中介護することもなかったから肉体的な負担も減った。そうすれば、精神的な負担もだいぶ減っていたと考えられるよね。」

### ④松本丑太郎さんの場合

T「じゃあ次は、ワークシートの左側の松本丑太郎さんを考えていこう。」、T「丑太郎さんも片桐被告と同じように一人で妻の介護をしていたんだけど、介護サービスの利用をしていたかな？」、S「していなかった。」、T「そうだったね。介護サービスの利用をせずに5年間もの間一人で介護を続けていたために手に腱鞘炎という障害を持ってしまったね。」、T「Q5で丑太郎さんは、5年間一人で妻の介護をしていたために手に腱鞘炎をおってしまったんだけど、どうすれば防げたのだろうか？」、S「介護サービスの利用。」、T「そうだね。さっきも勉強したように介護には、3つの負担があるんだよね。肉体的な負担が溜まることによって、手に障害をおってしまった。丑太郎さんの場合は、手の障害で包丁が持てないときがあったと言っていたので、料理に関してサービスを利用する。ほかの介護は自分でやるというような自分にとって負担の大きい部分に関してだけでもサービスを受けることで負担を減らすことができるよね。」

### ⑤一人だけの介護

T「片桐被告も丑太郎さんも何人で介護していた？」、S「一人」、T「そうだね。二人とも介護サービスを受けることなく、一人で介護していたよね。」、T「Q7で二人とも介護サービスに頼ることなく、一人で介護していたんだけど、どうしてだろう？」、S「責任感が強いから。」、T「そうだよ。片桐被告の場合は、仕事を辞めれば生活費がなくなると知りながらも母親の介護を続けたよね。丑太郎さんの場合は、手に障害を負いながらも妻の介護を続けていたよね。つまり、二人とも責任感が強いんだ。片桐被告の場合は、生活費がなくなるくらいなら介護をやめることも考えられたと思っている人いるかな？ワークシートの裏に資料を印刷しているので、下の左側の資料を見てください。」、T「新聞記事の上の方に民法と刑法を載せています。さっき言ったみたいに介護をやめればよかったと思った人は法律に違反するんだ。その法律に違反した例がその下の新聞記事にあるので各自読んでみてください。」、T「読んだらわかると思うんだけど、介護の責任から逃れることはできないんだ。」、T「Q8じゃあ片桐被告や丑太郎さんのようにならないためにはどうしたらいいんだろう？」、S「責任を分散する。」、T「そうだよ。責任から逃れられないのなら、できるだけその責任を分散したらいいよね。片桐被告や丑太郎さんは一人だったから、介護サ

ービスを利用するなどして責任を分散する。家族がいれば、家族みんなで責任を分散することで、片桐被告のように事件を起こしたり、丑太郎さんのように手に障害をおうこともなくなるんじゃないかと考えられるよね。」

#### ⑥責任分散の介護

T「Q9で、じゃあ、このように介護サービスを利用したり、家族協力して介護の責任を分散したりする介護を何のある介護って言うと思う？」、S「ゆとり」、T「すばらしい。そうだね。家族の協力、介護サービスの利用で責任を分散することによって、介護する人がゆとりを持つということにつながるからゆとりある介護だね。」、T「介護には3つの負担があって、それらが限界を超えると正常な判断ができなくなるっていうことがわかったよね。また、それらの負担を家族で協力したり、介護サービスを利用することによって責任を分散するゆとりある介護が重要であるということ学びました。」

#### ⑦在宅介護

T「Q10次にいきます。丑太郎さんの場合って所の左側のQ9を見てください。丑太郎さんは介護サービスが利用できるのにも関わらず、利用しなかったのはどうしてだった？」、S「妻が望んでないって言った。」T「そうだったよね。妻が望んでないから自分たちでやりますって言ってました。」、T「Q11で、じゃあ丑太郎さんの奥さんは、何で介護サービスを望んでないんだろう？自宅だけで介護することを在宅介護って言うのだけど、それについて考えていこう。時間をとるのでQ11を書いていってください。」、T「自宅だけの介護、在宅介護について考えているんだけど、上の部分の介護する人にとってについて聞いてみようかな。介護する人にとっての利点は？」、S「自分の家なので費用がかかる（生徒全員で）」、T「自分の家なので？」、S「安心（全員）」、T「じゃあ次は右の介護する人にとっての欠点にいこう。1日中の介護で？」、S「疲れる（全員）」、T「気分転換が？」、S「できない（全員）」、T「じゃあ次は介護される人にとっての利点を考えていこう。住み慣れた家なので？」、S「幸せ（全員）」

T「全部埋まったので、在宅介護について、介護する人・される人にとっての利点・欠点をまとめていきたいと思います。まず、介護する人の利点について、金銭面では、自分の家で介護しているわけだから費用がかからないよね。次に自分の家で自分が介護しているわけだから、安心だよ。もし、どこかの施設に預けていたらどんな風に介護されているのかわからないという不安があるよね。次に欠点について、片桐被告もそうだったけど、昼夜を問わず一日中の介護なので疲れるし、気分転換なんかしている暇もないよね。在宅介護で介護する人の利点・欠点はこのようにまとめられると思います。じゃあ、次は、介護される人にとってまとめていきます。介護されている人は住み慣れた家で家族に介護してもらえるんだから幸せだよ。知らない場所で知らない人に介護されるのは不安だし、やっぱり暮らしてきた家族と一緒にのほうが幸せだよ。このように在宅介護は、介護される人にとって幸せな介護だということが考えられます。」

#### ⑧介護サービス

T「じゃあ次は、二人とも利用しなかったんだけど、ゆとりある介護のために必要な介護サービスについて学習していきたいと思います。ワークシートの真ん中の介護サービスから伸びている矢印の先にあるQ12の方にいきます。時間をとるので、ワークシート裏の資料の上の方を参考に書いていってください。」、T「Q12じゃあ答え合わせしていきます介護サービスは大きく何種類？」、S「2種類（全員）」、T「そうだね。じゃあ、まず上の在宅サ

ービスについて見ていきましょう。」、T「Q13 在宅サービスとは、自宅での介護を中心に何を利用?」、S「サービス (全員)」、T「そうですね。在宅サービスとは、自宅での介護を中心にサービスを利用することです。次に下の施設サービスについて見ていきます。」、T「Q14 施設サービスとは、自宅ではなく、何中心の介護?」、S「施設 (全員)」、T「そうですね。施設サービスとは、自宅ではなく、施設中心での介護のことを言います。このように介護サービスは、在宅サービスと施設サービスの大きく2つのサービスに分けることができます。では、Q15 の在宅サービスの内容を確認していきましょう。」、T「Q15 在宅サービスの種類なんだけど、このワークシート以外にもたくさんありますが、ここには3つ取り上げました。中身については、詳しくやりませんので、各自で資料を見てどのようなサービスなのかを確かめてください。じゃあショートステイとは、何サービスでしょうか?」、S「通所サービス」、T「そうですね。通所サービスっていう名前よりもみんなはショートステイの方が聞いたことあるかな?このように在宅サービスについては、訪問サービス、通所サービス、短期入所サービスなどがあります。じゃあ次に施設サービスの種類について見ていきたいと思います。Q16 を見てください。」、T「Q16 施設サービスについては、このワークシートに書いてある3つがあります。一番上の介護老人福祉施設は通称何と呼ばれているのでしょうか?」、S「特別養護老人ホーム」、T「そうですね。介護老人福祉施設は、通称特別養護老人ホームといわれています。このほかに施設サービスは、その役割によって介護老人保健施設と介護療養型医療施設の3つがあります。その役割に関しては資料で各自確かめておいてください。」、T「次は、Q17 の在宅サービスの期間と費用について見ていきたいと思います。」

#### ⑨期間と費用

T「在宅サービスについて、期間が?」、S「短く」、T「費用が?」、S「安い」、T「そうですね。在宅サービスは、自宅での介護を中心としているので、期間というか利用時間は短いです。その分施設サービスに比べ、費用が安くなっています。次にQ18 の施設サービスについて、期間と費用を見ていきたいと思います。」、T「Q18 施設サービスについては、期間が?」、S「長く」、T「費用が?」、S「高い」、T「そうですね。施設サービスは、施設中心のサービスなので、期間は長くなります。その分費用も高いという特徴があります。「なお、これら介護サービスについては、利用を申請してから利用できるかどうか審査が下りるまでに約1ヶ月間かかります。すぐにサービスを利用しようと思っても利用できません。また、施設サービスについては、ワークシートにも書いてあるように山口市の施設に問い合わせたところ、常時300人が施設に入るのを待っている状態で、申請してから入所するまでに4~5年かかると言われ、こちらもすぐに利用できるというわけにはいきません。」、T「介護サービスについて、学習したところで片桐被告や丑太郎さんがやっていた在宅介護と在宅サービスの違いを考えていこうと思います。在宅サービスから左に伸びている矢印の先Q19があるので注目してください。」

#### ⑩利点と欠点

T「さっきは、片桐被告や丑太郎さんの介護方法である在宅介護に関して、介護する人・介護される人の利点・欠点について考えていったけど、今度は自宅での介護を中心にサービスを利用する在宅サービスについて考えてみよう。」、T「上の部分の介護する人にとってから考えていこう。介護する人にとっての利点は?介護の負担が?」、S「減る (生徒全員で)」、T「負担が減り、精神的に?」、S「安定する (生徒全員で)」、T「じゃあ次は右の介

護する人にとっての欠点にいこう。在宅介護に比べ費用が?」、S「かかる(全員)」、T「他人が家に入るので気を?」、S「遣う(全員)」、T「じゃあ次は、下の介護される人にとっての利点を考えていこう。専門的なサービスが?」、S「受けられる(全員)」、T「家族以外の人とかわりが」、S「できる(全員)」、T「じゃあ右の欠点にいきます。他人の介護なので気を?」、S「遣う(全員)」、T「はい。すべて埋め終わったのでまとめていきます。在宅サービスは、介護する人・される人のどちらに対しても気を遣うという難点がありますが、介護する人にとっては、介護の負担が減り、精神的に安定するというとても大きな利点があります。サービスを利用することによって、介護疲れ、介護によるストレスがかなり軽減され、息の長い介護につながると考えられます。また、介護される人にとっても専門的なサービスが受けられ、家族以外の人との関わりもできるため、新たな人間関係が築きにくい高齢者にとって大きな利点であると考えられます。」、T「この時間はNHKのビデオから現在起こっている高齢者問題のひとつである高齢者介護の問題点について考えてみました。また、それらから介護サービスの必要性を考え、サービスについて、介護する人・される人両方の視点から考えてみました。次の時間は、もう少し高齢者介護のことを考えた後にみんなに高齢者介護問題についての劇の台本を考えてもらおうと思います。」

## 【2】 一次の第2時

### 【2】—1 授業概要

一次の第2時は、家事に不慣れな男性の介護者による問題、介護は女性がするものかについて学習させ、家事技能は男女が学習してきたことを認識させ、女性だけに介護を任せている現状の介護について考えさせた。また、介護される高齢者が介護サービスを断る事例を紹介し、なぜ断るのかを考えさせた。次に劇の実演のためのシナリオを各個人でモデル家族①②について作成させ、それらを班で持ち寄り、各班ごとにstoryを作成させることにした。それら学習の様子を以下に述べていく。

### 【2】—2 授業実践

#### ①家事を誰がする

T「1時限目は、ビデオから高齢者介護問題、介護サービスなどについて考えてみました。今から丑太郎さんの介護方法について、考えていきたいと思います。STORY①っていうところから下に伸びている矢印のところに注目してください。丑太郎さんは妻の介護のために不慣れな家事や料理を5年もの間続けているうちに腱鞘炎を患ってしまいました。この場合、男の人が慣れていない家事や料理などをし続けたから手に障害を持っただけで、もし逆に妻が介護する立場で丑太郎さんが介護を受ける立場だったら妻は手に障害を持つことはなかったんじゃないかな。」、T「Q20 丑太郎さんは、男性で慣れない家事や介護を続けたために手に腱鞘炎を負ってしまったんだけど、家族の中で誰が家事、介護、気遣いがうまいかな?」、S「お母さん」「お父さん」「自分」、T「本当に?確かにお父さんがうまいところもあるだろうけど、普段料理や洗濯、掃除などの家事をしている時間は男性に比べて女性が長いことがわかっています。そう考えるとやっぱり介護は女性に任せたい方がいいのかな?女子はどう思う?」、T「Q21 のところに賛成の人は賛成の欄に、反対の人は反対の欄にそれぞれその理由を書いてください。」、T「じゃあ、まず賛成の人はその理由を発表してください。」、S「女性のほうが得意だから(男子生徒)」、T「ほかに賛成の意見はないかな?じゃあ反対意見の人はその理由を発表してください。」、S「家事もしているのに介護ま

でするのは難しい(女子生徒)」、T「そうだよね。家事だけでも大変なのに介護までやるのは難しいよね。ほかの意見がある人?」、S「男は力があるから、ベッドの介助などは男がやるべき(男子生徒)」、T「なるほど、力がある介護は男の人がやって介護を分担するって言うことだね。1 時限目に勉強したように介護は責任を分散することが重要だということがわかったよね。今のように介護を分担するという方法は、責任を分散するという面でもとてもいい方法だね。」、T「Q22 家事や介護だけけど、男子はできないのかな?」S「できる」、T「そうだよね。家庭科で料理や洗濯などの家事については、男子も女子も同じように勉強してきているんだから男子もできるはずだね。女子が慣れているっていうのは、男子に比べて経験があるからであって、男子も同じようにやれば男子も得意になるはずだね。介護は家族みんなの責任だから、性別は関係ない。男子もできるのなら女子にまかせるとはなくて、男子も責任を持ってできることをやる必要がある。」

## ②モデル家族

T「次に STORY②と書いてあるところに注目してください。介護サービスについては1 時限目に学習したよね。介護サービスを利用することで介護をする人の負担が減ったり、精神的に安定するという利点があったんだけど、このサービスを断る例があります。資料②の右側の記事を読んでみてください。」T「読んだらわかるようにこれはサービスを断ったために起こった事件です。この記事を読むと丑太郎さんもこのまま一人で介護を続けているとこの記事のようになるかもしれないよね。」、T「Q22&23 じゃあ今から1 時限目にも言ったようにみんなに劇の台本を考えてもらおうと思います。まず、STORY①の一番下にモデル家族①があるのでこの家族についての台本を1~4 班の人に考えてもらいます。STORY②の一番下にあるモデル家族②を5~7 班の人に考えてもらいますので、個人で考える台本については、班で考える台本と逆の家族について考えてもらいます。つまり、1~4 班の人は個人の台本はモデル家族②について、5~7 班の人はモデル家族①について考えてもらいます。ワークシートを配ります。」、S「(個人で劇の台本を作る)」、T「時間があまり取れませんでした、今から実際に班で次の時間に演じてもらう台本を考えてもらいます。ワークシートを配るので班で集合してください。」、S「(班で劇の台本を作る)」

### 【3】 二次の第1時

#### 【3】—1 授業概要

二次の第1時は、高齢者問題をリアルに捉えさせるために生徒が作成したシナリオによる生徒の実演及びそれを鑑賞する他班の生徒による評価及び教師の評価を行った。

#### 【3】—2 ロールプレイと生徒による評価

生徒の考えた劇のシナリオを図1のA-1~7に示し、劇の内容、生徒の感想、各班の評価を以下に述べていく。

**1**

**1班**

STORY:  
 \*お父さんは社員、お母さんはパート、高校3年生の姉と中学3年生の妹、祖父母の4人家族。  
 夏休、祖父母の家へ、お父さんが車を運転しながら、お母さんがお父さんを送りながらお父さんのお父さんにお話しをする。お母さんは、お父さんに話してあげる。

| 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |

A-1: 劇の内容(1班)

**2**

**2班**

STORY:  
 \*お父さんは社員、お母さんはパート、高校3年生の姉と中学3年生の妹、祖父母の4人家族。  
 夏休、祖父母の家へ、お父さんが車を運転しながら、お母さんがお父さんを送りながらお父さんのお父さんにお話しをする。お母さんは、お父さんに話してあげる。

| 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |

A-2: 劇の内容(2班)

**3**

**3班**

STORY:  
 \*お父さんは社員、お母さんはパート、高校3年生の姉と中学3年生の妹、祖父母の4人家族。  
 夏休、祖父母の家へ、お父さんが車を運転しながら、お母さんがお父さんを送りながらお父さんのお父さんにお話しをする。お母さんは、お父さんに話してあげる。

| 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |

A-3: 劇の内容(3班)

**4**

**4班**

STORY:  
 \*お父さんは社員、お母さんはパート、高校3年生の姉と中学3年生の妹、祖父母の4人家族。  
 夏休、祖父母の家へ、お父さんが車を運転しながら、お母さんがお父さんを送りながらお父さんのお父さんにお話しをする。お母さんは、お父さんに話してあげる。

| 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   | 役名   |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |
| お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん | お母さん | お父さん |

A-4: 劇の内容(4班)



5

STORY②  
 \* 主人公は公務員、若者人(1人)、老年大学参加者の自分と老年高校参加の姉、介護を受けている祖母。  
 老年介護施設もやっているが、今までのように続けられぬが、  
 親と本人との介護に悩む主人公、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

テーマ  
 母と子  
 (主人公の心) 母と子関係の大切さ 祖母と孫関係の大切さ 介護を受ける祖母の気持ち 祖母の介護の大切さ 祖母の介護の大切さ

あらすじ  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

登場人物  
 主人公(主人公) 祖母(祖母) 若者人(若者人) 介護士(介護士)

展開  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

結末  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

感想  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

演出  
 主人公(主人公) ナレーター 若者人(若者人) 介護士(介護士) 祖母(祖母) 孫(孫) 若者人(若者人)

A-5: 劇の内容(5班)

6

STORY②  
 \* 主人公は公務員、若者人(1人)、老年大学参加者の自分と老年高校参加の姉、介護を受けている祖母。  
 老年介護施設もやっているが、今までのように続けられぬが、  
 親と本人との介護に悩む主人公、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

テーマ  
 母と子  
 (主人公の心) 母と子関係の大切さ 祖母と孫関係の大切さ 介護を受ける祖母の気持ち 祖母の介護の大切さ

あらすじ  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

登場人物  
 主人公(主人公) 祖母(祖母) 若者人(若者人) 介護士(介護士)

展開  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

結末  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

感想  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

演出  
 主人公(主人公) ナレーター 若者人(若者人) 介護士(介護士) 祖母(祖母) 孫(孫) 若者人(若者人)

A-6: 劇の内容(6班)

7

STORY②  
 \* 主人公は公務員、若者人(1人)、老年大学参加者の自分と老年高校参加の姉、介護を受けている祖母。  
 老年介護施設もやっているが、今までのように続けられぬが、  
 親と本人との介護に悩む主人公、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

テーマ  
 母と子  
 (主人公の心) 母と子関係の大切さ 祖母と孫関係の大切さ 介護を受ける祖母の気持ち 祖母の介護の大切さ

あらすじ  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

登場人物  
 主人公(主人公) 祖母(祖母) 若者人(若者人) 介護士(介護士)

展開  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

結末  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

感想  
 主人公は祖母の介護をしながら、祖母と二人で生活が成り立たなくなっている。

演出  
 主人公(主人公) ナレーター 若者人(若者人) 介護士(介護士) 祖母(祖母) 孫(孫) 若者人(若者人)

A-7: 劇の内容(7班)

図1: 高齢者問題とその解決のために生徒が考えた劇のシナリオ

A-1～7を見ると半分以上の班は、しっかりと記述されてあるが、隙間が多くしっかりと考えられていない班も見られた。次に1～7班までの劇のあらすじは、「緊急家族会議一回目」→「その会議で決まったことの実行」→「数日後問題発生」→「家族会議二回目」→「その会議で決まったことの実行」→「最後」となっている。それを山本が要約し、以下述べていく。

A-1は、1班についてである。「話し合いの結果、平日は、母親だけが介護するようになり、土日は家族が手伝うことに決まった。しかし、土日も母に任せきりとなり、母が倒れるという問題が起きる。再び話し合いをし、父は買い物と料理、姉妹は掃除・洗濯などの家事をし、介護を家族全員ですることになり、最終的におじいさんの状態が良くなる。」という内容である。生徒によるゆとりある介護(=Y)の大切さ2.6点、家族での協力(=K)の大切さは3点、衣食住の家事技能(=G)の大切さは2.6点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「内容がとてもよかった。リアルだった。」「内容がしっかりしていて良かった。」などがあった。

A-2は、2班についてである。「在宅サービスを受けられるまで、母が介護することに決まった。平日は、母が介護して、休日はみんなで介護。しかし、母が倒れてしまうという問題が起きる。話し合い、父と母が介護。姉妹が家事をすることになり、最終的に母の負担が減り、楽しい介護生活になる。」という内容である。この評価はYでは2.9、Kは3点、Gは2.7点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「他の班に比べ、実際にありそうな話だと思った。」「家族の大切さが伝わった。姉妹に家事を任せた点が良かった。」などがあった。これらは教師が生徒に感じ取って欲しい内容であった。それを見ている側の生徒が感じ、評価したことは「高齢者介護問題に関するロールプレイ授業」の指導案や授業実践が有用だったと考えられた。

A-3は、3班についてである。内容は「祖母を手にかけてしまう」であった。第1報の授業でこのようなことは絶対あってはならないと学習させたにも関わらず、このような内容を考えていた。ふざけて考えていたとしてもひどい内容であったことから、「前回の授業で学習したように殺人は犯罪であり、絶対にやってはいけないこと。また、退院した祖母を介護せずに放置しておくことは法律に反していると新聞記事を見せていた。このようなことは絶対にあってはいけない。」というように指導しようとした。しかし、実際に演じた劇のあらすじは「話し合いで祖母を施設に入れることに決め、施設に入ってもらおう。施設での生活に不満がたまったら祖母が精神的に不安定になるという問題が起きる。再び話し合い、祖母を自宅で介護することに決まり、幸せな生活を送る。」という内容に修正されていた。この評価は、Yでは3点、Kは2.9点、Gは2.8点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「全体的に面白い劇だった。声が大きかったので伝わりやすかった。」「1度サービスを受けて、それから、またどうするかという話が良いと思った。」などがあった。後者は介護される側の気持ちを家族が配慮する、気遣いを他の生徒が感じた。「気遣い」は教師が学習させたい高齢者介護と家庭科をリンクする要素の一つであり、それがここでは学習されていた。

A-4は、4班についてである。「誰が介護するのか、介護の仕方がわからず、親戚や近所に頼んだり、本で介護について勉強する。みんなの時間が合わず、毎日介護できる人がいないという問題が起きる。母がパートを辞めて介護し、姉妹は手伝い、父は仕事量を増やし、母が辞めたパートの分までがんばる。」という内容である。この評価は、Yでは3点、

Kは3.2点、Gは3点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「親戚に電話しているのが新鮮だった。」「おばあちゃんの気持ちが伝わった。お父さんも介護していたのでよかった。」などがあった。これらは「家族の協力」、「家族間のコミュニケーション」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」が含まれており、この教材の有用性がここでも確かめられた。

A-5は、5班についてである。「父と母が話し合い、母がパートを辞め、介護をすることに決まる。母は、介護が大変すぎて家事が十分にできなくなってしまうという問題が起きる。話し合いの結果、父は休日に介護をし、姉妹は家事の手伝いをする。家族の協力のおかげで祖母は長生きをする。」という内容である。この評価は、Yでは3点、Kは3.2点、Gは2.9点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「みんなが自分から何かするよ。というのが温かいと思った。」「家族の大切さ、母を思いやる気持ちがあつて良かった。」などがあった。ここでは、「家族の協力」、「家事技能」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」が含まれており、この教材の有用性が確かめられた。

A-6は、6班についてである。「家族の状況から、祖母に在宅サービスであるデイケアを勧めることにする。祖母がサービスを利用することになり、母は仕事量を増やす。お金が足りなくなるが祖母は友達ができ、辞めたくないと言い、問題が起きる。話し合いの結果、姉がバイトを始め、生活を切り詰めるようにする。最終的に姉妹は受験に合格し、祖母も友達ができ、幸せになる。」という内容である。この評価は、Yでは2.9点、Kは3点、Gは2.6点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「おばあちゃんの意見・気持ちリアルだと思った。金銭面とかこういう問題に直面する家族は多いと思う。だから参考になるなあと思った。」「おばあちゃんの意見を尊重していて、良かったと思う。」などがあった。ここでは、「家族の協力」、「家族への気遣い」、「介護サービスの利用」が含まれており、この教材の有用性が確かめられた。

A-7は、7班についてである。「姉妹の進学のため、母がパートを増やすことに決めた。祖母をどうするか話し合う。祖母の意見を尊重し、在宅介護を続けることに決まった。母はパートの途中に1度祖母の様子を見に行くようにするが、十分ではなく、祖母が倒れてしまうという問題が起きる。日中の介護ができないため、サービスを利用する。」という内容である。この評価は、Yでは2.9点、Kは2.8点、Gは2.6点であり、他班の生徒の自由記述評価は、「問題が多い中で、みんながよく話し合い解決していく姿がいいと思った。」「演技がうまい人がいた。内容がゆとりがある感じでよかったです。」などがあった。ここでは、「家族間のコミュニケーション」、「家族への気遣い」、「介護サービスの利用」が含まれており、この教材の有用性が確かめられた。

### 【3】—3 教師によるロールプレイ評価

授業内で行った劇に関する山本の講評をまとめ、班ごとに評価したので以下に示す。

1班について、家族で生活しているからには、家族の一員としての責任感を持つことが重要であることからその点を注意し「家事を分担し、介護を家族全員でやるという態度がゆとりある介護につながる。しかし、手伝うという意識ではなく、自分たちが家族の一員であるという責任感を意識してやる必要がある。」と評価した。

2班について、中学校までの家庭科の学習で自立できていることが前提である。この家族は父と母が介護をし、姉妹が家事をするとしており、姉妹がすでに自立できていること

を前提に家族で協力しているところがすばらしかった。また、介護サービスを受けられるまでというサービスの利用を考えていることもゆとりある介護につながることから「姉妹が家事ができるという点がとても良かった。このようにできることを家族の責任として意識することが大切である。また、サービスの利用を念頭に置き、家族の負担をできるだけ減らそうとする姿勢がゆとりある介護につながる。」と評価した。

3 班について、祖母がいないところで勝手に決めているところに気遣いのなさを感じたが、施設での様子から祖母を再び家庭に戻して家族全員で介護をするというように祖母に対する気遣いも見られたことから「祖母を家族会議に加えずに勝手に決めることは、気遣いが足りなかった。しかし、施設での祖母の状態を見て、祖母を気遣い、在宅介護に切り替え、家族で協力して介護という姿勢がとても良かった。」と評価した。

4 班について、介護経験がないことから介護の情報を集める姿勢、家族だけではなく、親戚や近所を巻き込んだ介護の方法は非常に良かった。しかし、父の介護参加、姉妹の家族の一員としての責任という意識が見られなかったことから「初めての介護で方法がわからないことを調べることは必要。また、家族だけでなく、親戚や近所の人に頼んでいたのも良かった。母がパートを辞めて介護をすることは負担の集中になるので、父の介護参加が必要。姉妹も手伝うという意識ではなく、家族の一員としての責任を持って取り組む姿勢が大切であり、家族全員でやるという意識が必要。」と評価した。

5 班について、母への負担の集中が見られ、祖母の家族に対する気遣いが必要であった。また、家族の責任としてやるという意識が必要であることから「祖母のことを考えて、在宅介護を続けていた家族の気遣いは感じられたが、在宅サービスの利用を考えれば、母の負担を減らすことができた。祖母の家族に対する気遣いがあれば、もっといい劇になったのではないか。また、手伝うではなく、家族の一員として責任を持ってやるという姿勢が必要。」と評価した。

6 班について、祖母の家族への気遣いが良かったが、家庭内での介護の様子が紹介されていなかったため「家族の状況を考えて、デイケアの利用を承諾した祖母の家族への気遣いが見られて良かったが祖母がデイケアから帰った後の家庭内での介護の様子があれば、よりみんなに劇の観点を伝えることができ、もっといい劇になる。」と評価した。

7 班について、祖母の意見を尊重し、在宅介護を続けることになったが、日中の介護者がいなかったことが気になった。また、パートを途中で抜けるなど、母への負担が集中していた。在宅サービスを受けることに了承した祖母の家族への気遣いが見られたことから「祖母の気持ちを尊重していた。しかし、日中に介護者がいないことは何かあったときに危険である。また、母親に介護の負担が偏っているように感じられたので、家族で協力することが必要。また、祖母が倒れてしまったことから在宅サービスの利用を考え、祖母の家族への気遣いが見られ、良かった。」と評価した。

## 【4】 二次の第2時

### 【4】—1 授業概要

二次の第2時は、今回の授業のまとめとして、ゆとりある介護の7要素の復習と家庭科との関連、中学校家庭科の学習目標と高校家庭科の学習目標の違いを認識させ、今後の家庭科への学習への意欲を高めた。

## 【4】—2 授業実践

### ①ゆとりある介護の7つの要素

T「プリントを配ります。高齢者介護問題について学習してきました。1日目により良い介護のためにゆとりある介護が必要って学習したけど、覚えているかな？プリントの左側のゆとりある介護の要素っていうところにどんな要素があるのか書いてみてください。」、T「じゃあどんな要素があった？」、S「家族の協力」、「仕事の分担」、「サービスの利用」、「料理や洗濯」、T「そうだね。料理や洗濯は家事技能っていうから四角の中には家事技能と入れてください。他には？」、S「話し合うこと」、T「そうだね。そのような話し合いを家族間コミュニケーションと言います。他には？家族で協力するためには何が必要？みんなは今学校いるから、今もし家族で介護していても介護できないよね？どうしたらいいかな？」、S「生活時間の調整」、T「そうだね。もう一つはなんだろう？」、S「家族への気遣い」、T「7つそろったね。もう1度確認します。まず、家族で協力しないと負担が集中するよね。協力するから仕事を分担する必要がある。仕事には、介護のほかに料理や洗濯などの家事あるよね。家事技能が身につけていけば、介護に協力できる。でもみんな昼間は学校にだから生活時間の調整をしないといけない。そのためには家族でコミュニケーションをとる必要があるよね。でも、誰も介護する人がいなくなったらサービスの利用を考えないといけないけど、介護される高齢者を含めた話し合いが必要でサービスの利用についてもお互いを気遣いながら決めていかないといけないから必要だね。」

### ②ゆとりある介護の要素と家庭科の関連

T「じゃあこの7つの要素はどの教科で学習できると思う？」、S「家庭科」、T「そうだね。家事技能も介護サービスも家族関係も全部家庭科の学習だね。」、T「じゃあ中学校までの家庭科では何を目的とした学習かわかる？ちょっと難しいよね。中学校までの家庭科は自立するための学習なんだ。自立ってわかるよね？一人でも生活していくことができるってことだね。みんなは中学校卒業してるから自立できるはずだね。」、「じゃあ高校の家庭科は何のための学習なんだろう？一緒に考えていこう。まず、最初の空欄だけど、男女が入ります。その後考えてみて？男女が何をして何の一員として役割を果たすんだろう？」、S「家族」、「協力」、T「そうだね。男女が相互に協力して家族の一員として役割を果たし、何を気付くことの重要性を学習するんだろう？」、S「家庭」、T「そう。高校の家庭科では、男女が相互に協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について学習するんだ。今回の授業に当てはめると、男女が相互に協力してというところは、一人で介護すると1日目に見せたビデオのようになるかもしれない。協力しないと負担がたまってしまふよね。男女が相互に協力することで、ビデオのような高齢者介護問題を解決しないといけない。次の家族の一員として役割を果たしていうところは、劇で介護を手伝うという姿勢ではだめで、責任として意識しないといけないといいました。つまり、この家族の一員として役割を果たしていうところは家族としての責任感と言い換えることができるんだ。そして、男女が相互に協力して、家族としての責任感を持った上で家庭を築いていくことが重要で、そのために家庭科を学習しているということなんだ。つまり、これからみんなが家庭を築いていくにあたって家庭科の学習はとても重要であるということです。これで今回の授業は終わりです。最後にこの授業を1日目から受けてみてどうだったか自由に感想を書いてください。」

## 2-2 授業全体の評価

授業内容や教材の妥当性を振り返ることで評価していく。NHK のビデオは、生徒が急に静かになり集中して見ている様子から導入として効果があったと考えられる。それは内容が実際にあった事件を取り上げ、まじめな、熱心に介護していた長男が殺人まで犯してしまった飛躍が“なぜ”の意識を喚起させたからではないだろうか。また、家事が不慣れな夫が腱鞘炎になってしまう事例や介護サービスがあっても他人による介護拒否など、現在の介護問題が明確に示された内容だったことも高校生を引きつけた要因として考えられる。

しかし、こちらの発問形式はほとんどが選択肢であったため、授業後半には生徒に“飽き”が見られるようになった。後半では、選択肢よりも自由記述の設問の方が効果的であろうと考えられた。それは授業進行とともに高齢者介護問題に関する生徒の知識理解が進み、選択肢では簡単すぎてしまい、参加意欲を削いでしまったためと思われる。全体的な授業の流れは無理がなく、スムーズであったことから今回の指導案どおりでよいと判断した。劇の実演では、しっかりと演じることができており、鑑賞する側の生徒たちも楽しそうに劇に見入っていた様子から今回のロールプレイングは具体的に高齢者介護問題の理解と解決のために有用ではないかと考えた。

## 3. まとめ

### <学習の様子>

- ・一次の第1時
  - \*NHK ビデオは教材として有用。
  - \*ワークシートによる高齢者介護問題の理解と解決はスムーズであった。
- ・一次の第2時
  - \*シナリオ作成時に生徒の困惑が見られた。
  - \*台本の例示や実演が必要であると考えられた。
- ・二次の第1時
  - \*全てのシナリオにゆとりある介護の7つの要素のいずれかが含まれており、教材の有用性が確かめられた。
  - \*シナリオ実演、他班の鑑賞ともに意欲的に取り組み、他班の生徒による自由記述評価は授業内容を反映した観点からなされていた。
- ・二次の第2時
  - \*ゆとりある介護の復習によってその理解が確かめられた。
  - \*7つの観点が全て家庭科の学習内容であることに気づいた。

## 4. おわりに

「高齢者介護の問題に気づき、より良い介護の方法について理解する」ことを目標にした指導案を考え、実践した。生徒は導入の「NHK ビデオ」では、集中して視聴している様子が伺え、このビデオの有用性が高いと考えられる。授業中、教師の発問に対して、早い応答があったこと、発問に全員で答えるようになったことから、授業は理解できる内容であり、授業の流れも生徒が把握できたと考えられる。それは教材で授業の流れをフローチ

ャート式にし、選択項目を多く取り入れたなど工夫した効果だと考えた。

授業全体について生徒は「内容がとてもよかった。リアルだった。」「家族の大切さが伝わった。姉妹に家事を任せた点が良かった。」「おばあちゃんの意見・気持ちがリアルだと思った。金銭面とかこういう問題に直面する家族は多いと思う。だから参考になるなあと思った。」などがあつた。このように「高齢者介護の理解と問題解決」のリアルさを感じ、家族の大切さや兄弟姉妹の協力の大切さも実感し、介護には金銭の必要性も認識できたことは、ロールプレイを用いた効果だと考えられる。プレポストテストなどによる学習効果について、別報<sup>5)</sup>で報告する。

## 参考文献

- 1) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイ教材開発」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p201-212 (2008)
- 2) 旅田珠美ら「実感・体感できる授業をめざした「保育」学習の在り方」
- 3) 桑原昭徳ら「家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導 (1)」山口大学教育学部研究論叢、p229-243 (2006)
- 4) 草野啓顕ら「家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導 (2)」山口大学教育学部研究論叢、p245-260 (2006)
- 5) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイ教材の学習効果」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p229-240 (2008)